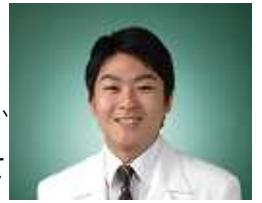


尾崎のつぶやき

先生方の共通したご意見のひとつとして、当院外来の紹介窓口が統一されていないという問題があります。開業医の先生方からのご紹介を全て地域連携窓口で管理するシステムがあれば、紹介がよりスムーズとなり、返書の問題も取り組みやすくなると考えており、院内システムの見直しを引き続き行っております。また、地域連携のツールとして「face book」を立ち上げ、早速十数名の先生方にご参加頂いており、情報交換の場として役立てることができればと考えております。システム、ツールも全て「顔の見える連携」があって初めて成り立つものであり、8月3日のがん診療連携パス交流会のご案内にかえさせて頂きたいと存じます。



腫瘍内科 尾崎 由紀範

地域の先生方との交流

泌尿器科 部長 太田 智則

泌尿器科領域でも前立腺がんのPSA検診から精密検査(前立腺生検)の連携パスが運用されようとしています。さらに検診だけでなく前立腺全摘、放射線照射、内分泌療法といった治療開始後のfollowのパスも運用される予定となっています。このようにがんの地域連携パスが検討され徐々に運用されつつあるようです。同時にがん以外の疾患についても地域連携を考えなければならないのではと思うようになりました。というのも高齢化が我々の予想を遙かに上回るペースで進むからです。高齢化と排尿の問題は切っても切り離せないものです。先月、病院を飛び出して地域で開業されておられる泌尿器科を専門とされない先生方に排尿障害(前立腺肥大症や過活動膀胱)についてお話をさせて頂く機会を頂きました。とても熱心に聞いていただき、また質問も活発にいただきとても有意義なものでした。その中で特に印象的だったのは、私のような急性期の病院にいる医師と介護も含め地域に根ざして活躍されている先生方の患者さんにたいする視点に違いがあることを改めて認識させられたことです。同時に、専門外にもかかわらず真剣に考えておられる姿に敬服しました。直接お話することで病院側に足りないものを認識し、お互いを理解する良い機会になったことは、今回のテーマであった排尿障害という疾患群を理解するだけにとどまらず癌連携パスを運用する上でも大きな意味があったと思います。今後も癌にかかわらず幅広く地域の先生方と交流する機会を持つことで、より良い連携につながるものと思います。

TOPICS

第2回がん診療連携パス交流会開催

日時: 8月3日(水) 18:30~21:00(懇親会含)
 場所: 亀田総合病院Kタワー13階ホライゾンホール
 講演: 1. 「開業医の望む地域連携~パス、在宅、ICT」
 社会福祉法人守一会北美原クリニック 理事長 岡田晋吾先生
 2. 「地域連携における院内体制について(仮)」
 社会福祉法人函館厚生院函館五稜郭病院
 企画部センター長 船山俊介先生

地域に向けての勉強会をスタート

兼ねてよりご希望がありました看護勉強会をスタート致します。まずは安房地区にて緩和ケア看護勉強会(4回シリーズ: 9/26・10/17・10/31・11/21)を開催予定です。場所は安房地域医療センターです。(安房地区には別途ご案内を送付しております)今後各地区での開催も検討しておりますので是非ご参加下さい。

家族ケア勉強会開催決定【元気が出るカンファレンスのもち方】

日時: 9月25日(日) 10:00~16:30
 場所: 亀田総合病院K棟13階ホライゾンホール
 詳細は後日お送りいたします。

がん地域連携室スタッフよりご挨拶



経営企画室 栗栖 千幸

5月からがん地域連携室に参加しております、栗栖千幸です。「がん連携パスだより」や「イントラ」から、地域医療連携事業が運営されていることを知り、参加しました。看護学生時代から地域に根ざした保健・医療・福祉の連携が重要だと考えていました。これから地域連携について、さらに学びたいと考えています。微力ではありますが、自分に出来ることから貢献していきたいと思っています。よろしくお願ひ致します。

地域連携について

いつも亀田メディカルセンターの皆様、とりわけ救急部の先生方にはお世話になっております。この場を借りて御礼申し上げます。鋸南病院といってもご存知ない方がほとんどかと思ひます。場所は亀田病院さんとは房総半島の反対側25km。三浦半島の先に富士を望み、すぐ前が漁港、海水浴場です。一般床の一次救急病院で公設民営、鋸南きさらぎ会が町から指定管理者として運営しています。鋸南病院の救急医療圏は鋸南町のほか富津市の南部から南房総市の内房地区を受け持っています。鋸南町の人口は20年前14,000人はいたかと思ひますが、いま9,100人高齢化率36.8%で千葉県では実質1位だそうです。患者さんは高齢者が外来の8割、入院では10割になります。高齢者は交通手段に乏しく、買い物・通院に困っています。また病気になるやすく一度倒れると回復しにくく、地域の病院が必要です。とは言っても一時常勤医師7人71床だった病院も今は医師3人職員43名で33床を運営するのが精一杯です。常勤医師がもう1人は欲しいです。今後とも機能的に無理な事もあり、亀田メディカル様には無理を御願ひすることが多いかと思ひますが、よろしく御願ひいたします。また我々でも受け持て、貴院の負担になっている患者さんがいれば、指示の元地域連携という形で御協力いたします。昨年は嚙下りハビリの指導にわざわざリハビリスタッフ4人も派遣していただいて大変有難うございました。



鋸南病院 金親 正敏 院長

亀田総合病院がん拠点病院推進センター
 発行責任者: 亀田 信介
 編集責任者: 唐織 房子
 TEL: 04-7099-1230(内線7155)